

令和5年度使用教科用図書選定のための資料

学校教育法附則第9条教科用図書（一般図書）

岩手県教育委員会

令和5年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書(見本)理由書一覧

1 図書名

No.	出版社	書名	該当教科	障がい種	学部・学年等	価格(税込)
1	童心社	びりびり	図画工作	視覚障がい	小学部2年 (重複学級)	¥1,100
2	大日本絵画	ゆびゆびこんにちは!	算数	視覚障がい	小学部4年 (重複学級)	¥1,650
3	朝日新聞出版	うたおう♪はなそう! おうた&ことばタブレット	音楽	視覚障がい	小学部6年 (重複学級)	¥2,420
4	リーブル	おはなし30 ねえ、よんで! しつもん おしゃべりさん	国語	視覚障がい	中学部1年 (重複学級)	¥1,650
5	河出書房出版	ことばを育てるえほん あいうえオノマトペ	国語	知的障がい	小学部4年	¥1,760
6	チャイルド本社	絵で見てわかる! きもちのことばじてん	国語	知的障がい	中学部3年	¥1,760
7	日本図書センター	あんしんえほん はじめての「よのなかルールブック」	生活	知的障がい	小学部4年	¥1,430
8	講談社	こどもせいかつ百科	職業・家庭	知的障がい	中学部1年	¥1,980
9	学研プラス	かたちがぱぱぱ	図画工作	肢体不自由	小学部3年 (重複学級)	¥1,210
10	ロクリン社	かえるのピクルス まるいアレ	美術	肢体不自由	中学部3年 (重複学級)	¥1,540
11	ポプラ社	おやこであそぼ あかまるさわって!	算数	肢体不自由	小学部2年 (重複学級)	¥1,485
12	汐文社	わたしがわかる みらいもわかる SDGsはじめのいっぽ	社会	肢体不自由	中学部2年 (重複学級)	¥1,980
13	小峰書店	へんてこたいそう	生活	病弱	小学部5年 (重複学級)	¥1,320
14	東洋館出版社	えほんコグトレ1 スウちゃんとミイクんの しょうてんがいでおかいもの	算数	病弱	小学部5年 (重複学級)	¥1,496
15	岩崎書店	ぴたっとへんしん プレタングラム のりもの	算数	知的障がい	小学部5年	¥1,430
16	コクヨ	めくっておぼえる にほん地図	社会	聴覚障がい	中学部1年 (重複学級)	¥1,100
17	教育画劇	きみのげんきをマモルンジャー	保健体育	知的障がい	中学部1年	¥1,210
18	教育画劇	いるいる! みずべのいきもの	理科	知的障がい	中学部1年	¥1,320
19	福音館書店	おとがあふれて オムライス	国語	聴覚障がい	小学部6年 (重複学級)	¥990
20	玉川大学出版部	かんじの えほん	国語	聴覚障がい	中学部2年 (重複学級)	¥1,430

2 一般図書選定の理由書(次頁)

一般図書選定の理由書

番 号	1
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名		ぶりぶり	発 行 者 名		童心社	
図 書 の 内 容		<p>本書は、紙を破くといろいろな形に変わる楽しさを紹介している図書である。親しみやすい動物などの生き物が登場し、楽しく読み進めることができる。</p> <p>また、コントラストが高く絵がはっきりしていて見やすく、色に注目して読むこともできる図書である。</p>				
対 象 学 年		小学部2年（重複学級）	障がい種別	視覚障がい	該当教科	図画工作
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、両眼視力が0.04で、知的障がいを併せ有している。本に顔を近づければ、色や形をとらえることができる。また、色の名前がいくつか分かり、紙をちぎる活動も好きである。</p> <p>児童と一緒に紙を破く活動を通して、「何の形に見えるかな？」と教師と一緒に考えたり、作品を通して友達と交流したりすることで、様々な色に気づき、材料や用具を使おうと意欲的に活動することが期待できる。また、作り出すことの楽しさを味わうことが期待できる。</p>				
	指 導 の 概 略	<p>(1) 教師の読み聞かせを聞く。</p> <p>(2) 教師が「ぶりぶり」と言いながら折り紙を破く様子を見る。</p> <p>(3) (2) でできた形の見立てを聞く。</p> <p>(4) 「ぶりぶり」と話しながら、自由に紙を破き、何に見えるか教師と一緒に考える。</p> <p>(5) 友達の作品を見て、いろいろな形やものに見えることを楽しむ。</p> <p>(6) (4) ～ (5) を繰り返す。</p> <p>(7) みんなの作品を液体のりで模造紙に貼る。</p> <p>(8) うまくできたことや楽しくできたことなどの感想を話す。</p>				

(記入上の注意)

- 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	2
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	ゆびゆび こんにちは！		発 行 者 名	大日本絵画	
図 書 の 内 容	<p>本書は、どのページにも丸い穴が開いており、指を入れて楽しむことができる図書である。ページに空いている穴の後ろから指を入れると、1本の指は、ぞうの鼻になったり、2本の指は、やどかりのはさみになったりし、挿絵に合わせながら、数字と指の数、指の動きなど楽しむことができる。</p> <p>穴の数は1個～6個まであり、数字や数に興味をもちはじめた子どもに合っている。</p>				
対 象 学 年	小学部4年（重複学級）	障がい種別	視覚障がい	該当教科	算数
選 定 の 理 由	児童生徒の実態	<p>本児童は、両眼が光覚の盲児である。児童は、教師の「グー、パー」の声掛けで、手をグーにしたり、パーにすることができるようになってきた。また、朝の会で時間割を確認する際、「1時間目」の声掛けで、「1」と言って、教師と一緒に指で「1」を出すことができるようになってきた。声掛けだけで、指を出すことも増えている。</p> <p>本書を活用することにより、数の声掛けと実際の指の数のマッチングの理解が深まることが期待できる。</p>			
	指導の概略	<p>(1) 数の学習をすることを知り、教師と一緒に指で1～5まで出す。</p> <p>(2) 教師の読み聞かせを聞く。</p> <p>(3) 「1ぼんのゆび。こんにちは！」を教師が読んで穴に指を入れたら、教師の指を触り、「1」と一緒に数える。同様に、5本まで数える。</p> <p>(4) 教師の読み聞かせを聞き、穴に指を入れることを手伝ってもらいながら、穴の数だけ指を入れる。</p> <p>(5) 両手で1と1、両手で2と2のように、両手で1～5本の指を出して「いっぼんゆびのはくしゅ」の手遊び歌をする。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の（ ）は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	3
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	うたおう♪はなそう！ おうた&ことばタブレット		発 行 者 名	朝日新聞出版	
図 書 の 内 容	<p>本書は、子どもたちに人気の曲が30曲収録されており、ボタンを押すと曲が流れる図書である。カラオケで歌うことや好きな曲をリピートして音楽を聞くこと、メロディークイズボタンを押してクイズに答えることもできる。それぞれの曲に、歌詞のページがついており、歌詞を覚えることができるようになっている。</p> <p>また、動物や乗り物の名前、あいさつの言葉を英語と日本語で聞くこともでき、音や音楽に親しめる図書である。</p>				
対 象 学 年	小学部6年(重複学級)	障 が い 種 別	視 覚 障 が い	該 当 教 科	音 楽
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、全盲で、知的発達3歳程度である。歌を聴いたり、歌ったりすることが好きで、よく鼻歌を歌っている。朝の会では「うた係」を担当し、CDラジカセのスタートボタンを一人で押すことができる。</p> <p>本書を操作し、繰り返し活用することによって、いろいろな歌に親しみ、音楽に合わせて体を揺らしたり、歌ったりすることが期待される。また、気に入った曲のボタンの位置を覚えて、自分で曲を聴いて楽しむことも期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 本書を自由に触る。</p> <p>(2) お気に入りのボタンを教師に伝える。</p> <p>(3) お気に入りのボタンを押し、教師と一緒に体を揺らしたり、歌ったりする。</p> <p>(4) (1)～(3)を繰り返す。</p> <p>(5) リピートボタンを押し、お気に入りの曲を繰り返し聴く。</p> <p>(6) カラオケボタンを押し、お気に入りの曲を歌う。</p> <p>(7) 発表会で、お気に入りの曲を歌い、感想をもらう。</p> <p>(8) お気に入り以外の曲も聴き、曲の名前を知る。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	4
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	おはなし30 ねえ、よんで！ しつもんおしゃべりさん		発 行 者 名	リーブル	
図 書 の 内 容	<p>本書は、普段話すことがない「ひこうき」、「はたけ」、「おでんなべ」、「たからくじ」、「おふろ」、「うちゅう」、「じゅうえんだま」などが話しかけてきて、質問に答えることができる図書である。</p> <p>「えんぴつ」のページには、「あんまりちいさくなっちゃったので、ふでばこのなかからおいだされちゃった。」などと書かれており、鉛筆は使うと小さくなるというような知識も広げることができ、30の質問のページで、生活経験を広げることができる図書である。</p>				
対 象 学 年	中学部1年（重複学級）	障がい種別	視覚障がい	該当教科	国語
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本生徒は、視覚障がいがあり、全盲の生徒である。知的発達は、7歳程度の生徒である。好奇心旺盛で、話すことが好きである。会話においては、思いついたまま話す傾向があり、相手に伝わらないこともある。</p> <p>本生徒は、普段話すことがない物が話しかけることに興味をもち、相手に聞かれたことを聞き返ししながら、話の大体を捉えることができると期待される。</p> <p>本書を活用して、話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを、話す順序や伝え方を工夫することや、友達や教師と一緒に読み、答えた内容を共有することで、自分が考えた物が話しかけるなどの簡単な「おはなし」を作ることも考えられる。</p> <p>30の「おはなし」の内容で、知らない事柄を友達や教師に聞いたり体験したりすることで、生活経験を広げることが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 本書を読み、質問に答えることを知り、「何人家族？」などの簡単な質問に答える。</p> <p>(2) 一つのページの読み聞かせを聞き、内容をつかむ。</p> <p>(3) 質問に答え、教師の答えも聞いて共有する。</p> <p>(4) 知らない事柄が出てきたら、後日体験する。</p> <p>(5) 友達や教師が「おはなし」を作り、「普段話すことがない〇〇」になって質問し、それに答える。</p> <p>(6) 「普段話すことがない〇〇」になって「おはなし」を作り、友達や教師に質問する。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の（ ）は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	5
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	ことばを育てるえほん あいうえオノマトペ	発 行 者 名	河出書房新社		
図 書 の 内 容	本書は、動物の鳴き声や物事の様子、動作などをオノマトペで表現した図書である。平仮名1文字ずつがオノマトペで表現されており、その表現を使った短い文や絵が掲載されている。オノマトペを使った言葉の表現やひらがなに親しむことができる図書である。				
対 象 学 年	小学部4年	障 が い 種 別	知的障がい	該 当 教 科	国語
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、知的発達が6歳程度の児童である。平仮名に関心があり、平仮名が書かれている本を選んで、繰り返し読んでいる。自分の名前や身のまわりのものを平仮名で書くこともできる。</p> <p>本書を活用することにより、動物の鳴き声や物事の様子、動作などを音で表現できることを知り、音や動作を真似ることでオノマトペの表現を理解できることが期待される。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 本書を読む。</p> <p>(2) 本書を教師と一緒に読み、実際の音とオノマトペの表現を確かめる。</p> <p>(3) 本書を教師と一緒に読み、絵の動作とオノマトペの表現を確かめる。</p> <p>(4) 本書を教師と一緒に読み、物事の様子とオノマトペの表現を確かめる。</p> <p>(5) 「ガ行」のオノマトペを教師と一緒に考える。</p> <p>(6) 「ガギグゲオノマトペ」を作って発表し、感想をもらう。</p> <p>(7) ガ行以外の濁音や半濁音のオノマトペも調べる。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	6
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名		絵で見てわかる！ きもちのことばじてん	発 行 者 名	チャイルド本社		
図 書 の 内 容		<p>本書は、気持ちを表現する語彙について、言葉の意味や使い方が絵やふりがな付きの文章で分かりやすく説明されており、心情について豊かに表現するための言葉を習得できる内容となっている。</p> <p>また、「うれしい」「かなしい」「すき・きらい」など、日常的によく使用する心情表現について、具体的な使い方が紹介されており、自分自身の気持ちを言葉にして伝えることができる豊かな言語力の育成につなげることができる図書である。</p>				
対 象 学 年		中学部3年	障がい種別	知的障がい	該当教科	国語
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本生徒は、知的発達が7歳程度の生徒である。教師や友達とかかわることを好み、生活の中で自分の希望にそわない出来事があっても、少しずつ気持ちを自分なりの言葉で話すことができるようになってきている。</p> <p>学校行事を振り返っての発表や作文等の学習では、感想をいつも決まった言葉で表現することが多いため、本書を活用しながら、様々な心情表現を具体的にどのように使うかを学び、学んだ表現を発表や作文に生かしていくことで確かな言語力の育成へとつなげることが期待できる。</p>				
	指 導 の 概 略	<p>(1) 自由に本書を読み、気に入った「きもちのことば」を探す。</p> <p>(2) 「きもちのことば」にはどんなものがあるかを考え、発表する。</p> <p>(3) 「うれしい・たのしい」を表す言葉を確認する。</p> <p>(4) 「うれしい・たのしい」を表す言葉で文を作り、発表する。</p> <p>(5) 「かなしい・おこる」を表す言葉を確認する。</p> <p>(6) 「かなしい・おこる」を表す言葉で文を作り、発表する。</p> <p>(7) 「すき・きらい」を表す言葉を確認する。</p> <p>(8) 「すき・きらい」を表す言葉で文を作り、発表する。</p> <p>(9) 「こわい・おどろく」を表す言葉を確認する。</p> <p>(10) 「こわい・おどろく」を表す言葉で文を作り、発表する。</p> <p>(11) 「あんしんする・気分がよい」を表す言葉を確認する。</p> <p>(12) 「あんしんする・気分がよい」を表す言葉で文を作り、発表する。</p> <p>(13) 適切な心情表現を記入して、文章を完成するプリントの学習に取り組む。</p> <p>(15) 年間を通して、作文などの表現活動場面で本書を活用しながら取り組む。</p> <p>(16) 学習を振り返る。</p>				

(記入上の注意)

- 1 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	7
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	あんしんえほん はじめての「よのなかルールブック」		発 行 者 名	日本図書センター	
図 書 の 内 容	<p>本書は、病気、事故、犯罪など身近な危険から「自分を守る」ことについて学ぶことができる図書である。</p> <p>50の「あんしんルール」について、それらのルールがある理由についても、読み手に話しかけるように書かれており、わかりやすい内容となっている。</p> <p>また、どこまでできたか、一目で分かるように「あんしんルールリスト」も付いており、チェックすることで、意欲を高めることができる図書である。</p>				
対 象 学 年	小学部4年	障 が い 種 別	知的障がい	該 当 教 科	生 活
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、知的発達が3歳程度である。身のまわりの生活のことが理解できるようになってきており、自分のことは自分で行おうとする場面が増えてきている。しかし、自分の思い通りにいかないと、落ち着いて取り組めないこともある。また、行動範囲も広がり、危険な場面も多くみられ、常に見守りが必要である。</p> <p>本書を活用することで、ルールとその理由について理解し、「あんしんルールリスト」でチェックしながら自分の生活を振り返り、安全に関心をもち、安全な生活に取り組もうとすることが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 学校や家庭で、どんなルールがあるのかを発表する。</p> <p>(2) 教師の読み聞かせを聞く。</p> <p>(3) 教師と一緒に「あんしんルールリスト」を活用して、自分の生活を振り返る。</p> <p>(4) 本書の中で、できていることを発表する。</p> <p>(5) 本書の中で、できるようになりたいことを発表する。</p> <p>(6) できるようになりたいことを実践する。</p> <p>(7) 実践の取り組みについて、教師や家族からコメントをもらう。</p> <p>(8) (6)(7)を繰り返す。</p> <p>(9) 本書を活用して、できるようになったことについて振り返る。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	8
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	こどもせいかつ百科	発 行 者 名	講談社		
図 書 の 内 容	<p>本書は、「あさ」「ひる」「よる」「学校せいかつ」の場面での活動において、子どもが、どのような道具を使い、どのような手順で指先を動かしていくとうまくできるか、豊富な絵と分かりやすい文で詳しく紹介している。「ひとりで ふくをきよう」、「てあらい うがいをしよう」「おふろに はいろう」などのテーマが、それぞれ見開き1ページで説明されており、簡潔で分かりやすい構成となっていることから、取組への意欲を高めることができる図書である。</p>				
対 象 学 年	中学部1年	障がい種別	知的障がい	該当教科	職業・家庭
選 定 の 理 由	<p>児童生徒の実態</p> <p>本生徒は、知的発達が8歳程度の生徒である。排泄、着替え、食事等の身の回りのことをほぼ一人でできるようになってきている。一方で、洗濯、調理、清掃等については、家庭での経験が少なく、これから身につけていくことが望まれる。本書を活用することにより、衣服の手入れや食事の準備、快適な住まいについて段階的に理解を深め、学校生活や家庭生活での実践につなげていくことが期待できる。また、目次を活用し、学習したことやできるようになったテーマにシールを貼るなどすることで、学習の積み重ねを実感し、さらに意欲を高めながら学習を生活に生かしていくことができると考えられる。</p> <p>の 指 導 の 概 略</p> <p>(1) 目次を見ながら、これまで実践したことがあることを発表する。 (2) 「せんとくをしよう」を教師と一緒に読み、タオル、靴下、Tシャツを洗う。 (3) 「せんとくものを たたんでしまおう」を読み、(2) で洗ったタオルや靴下、Tシャツをたたむ。 (4) 「うわばきをあらおう」を教師と一緒に読み、上履きを洗う。 (5) 「しょっきを かたづけよう」を教師と一緒に読み、食器を洗う。 (6) 「へやの かたづけを しよう」を教師と一緒に読み、衣服をハンガーにかけたり、ロッカーの整理整頓をしたりする。 ※学習したことやできるようになったことは、目次にシールを貼る。 (7) 家庭でやってみたいことを決める。 ※家庭で実践し、保護者からコメントももらう。 (8) 保護者からのコメントを読み、目次のシールが増えてきたことを確かめながら、学習を振り返る。</p>				

(記入上の注意)

- 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	9
--------	---

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	かたちがぱぱ	発 行 者 名	株式会社 学研プラス		
図 書 の 内 容	<p>本書は、左右に傾けると、しかけが動き、形や色、大きさ、絵柄が変化する図書である。</p> <p>本書を見たり、手に取って傾けたりすることで、形や色、大きさなどに関わることができる。</p> <p>円や正方形、星や魚の形にくり抜かれ、その下を大きさの違う円が左右に動くしかけとなっており、色の変化も楽しむことができる。また、本書を傾けるたびに、形が変化するのはもちろん、カタカタと鳴る音も楽しむことができる図書である。</p>				
対 象 学 年	小学部3年（重複学級）	障 が い 種 別	肢 体 不 自 由	該 当 教 科	図 画 工 作
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、肢体不自由と知的障がいを併せ有している。脳性まひによる両下肢機能障がい、両上肢機能障がいがあり、車椅子で生活している。日常生活は、全般的に支援が必要である。家族や教師の関わりを好み、話しかけると笑顔になったり、家族や教師が見えなくなると泣いたりするなど、自分の気持ちを表現することができる。</p> <p>本書を持ち上げたり、傾けたりするなど、自分の行ったことを通して、形や色、大きさが変化したことに気付いたり、その面白さを感じたりすることが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 教師が操作しながら、本書を見る。</p> <p>(2) 教師と一緒に傾けながら、本書を見る。</p> <p>(3) 教師と一緒に「へーんしん」と言いながら、本書を見る。</p> <p>(4) 好きなページを選ぶ。</p> <p>(5) 教師が用意した色や形のカードの中から、本書と同じものを見つける。</p> <p>(6) (4) (5) を繰り返す。</p> <p>(7) 本書のくり抜かれた部分を触って確かめる。</p> <p>(8) 様々な形や色を組み合わせた模様のデザインづくりを行う。</p> <p>(9) 作った作品を鑑賞し、そのよさについて発表し合う。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の（ ）は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	10
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	かえるのピクルス まるいアレ	発 行 者 名	ロクリン社		
図 書 の 内 容	<p>本書は、かえるのピクルスが身に着けている「まるいアレ」が一体何なのかを、ピクルスと一緒に町に出かけながら探していく図書である。</p> <p>ドーナツ型の「まるいアレ」は、お金、眼鏡、半濁点（パの丸）、乗り物の車輪など、身近にある「まるいアレ」を探しながら読み進めることができる。</p> <p>本の内容から、自分の生活にある「まるいアレ」にも関わることができる図書である。</p>				
対 象 学 年	中学部3年（重複学級）	障 が い 種 別	肢 体 不 自 由	該 当 教 科	美 術
選 定 の 理 由	<p>児童生徒の実態</p> <p>本生徒は、肢体不自由と知的障がいを併せ有している。脳性まひによる両下肢機能障がい、車椅子で生活している。日常生活は、全般的に支援が必要であるが、上肢は、しっかりしており、美術の学習では、はさみやカッターなど用具の扱い方も分かり、表したいことや表し方を考えることができる。</p> <p>本書の「まるいアレ」から、想像したり、身の回りにある「まるいアレ」を見つけたりする活動を通して、自分の見方や感じ方を深めることが期待できる。</p>	<p>（1）教師がドーナツ型の「まるいアレ」を提示し、どんなものか想像する。</p> <p>（2）教師の読み聞かせを聞く。</p> <p>（3）「まるいアレ」はいったい何だったのか確認する。</p> <p>（4）身の回りにある「まるいアレ」を探し、写真を撮る。</p> <p>（5）見つけた「まるいアレ」を発表する。</p> <p>（6）（4）（5）を繰り返す。</p> <p>（7）自分だけの「まるいアレ」をつくる。</p> <p>（8）自分たちの「まるいアレ」を鑑賞し、そのよさや面白さについて発表し合う。</p>			

（記入上の注意）

- 1 対象学年の（ ）は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - （1）該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - （2）選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	11
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	おやこであそぼ あかまるさわって！		発 行 者 名	株式会社 ポプラ社		
図 書 の 内 容	<p>本書は、色、形、数、大きさ、さわりごこちについて、見たり触ったり、仕掛け扉をめくったり、ダイヤルを回したりするなど、算数的活動に取り組むことができる図書である。</p> <p>本文の他に、各ページの右下には、様々な質問が書かれており、繰り返し読んで答えを探したくなる図書である。</p>					
対 象 学 年	小学部2年（重複学級）	障がい種別	肢体不自由	該当教科	算数	
選 定 の 理 由	児童生徒の実態	<p>本児童は、肢体不自由と知的障がいを併せ有しており、学校では車椅子を使用している。右手にまひがあり、両手を使うように声を掛けても、左手だけを使っている場面が多くみられる。また、脳室周囲白質軟化症により、形をとらえることに難しさがある。様々な物を見ているが、それを描こうとすると、うまく描けずに、教師の支援を求めることが多い。</p> <p>本書を活用することで、教師とのやり取りや手指を動かしてめくる、回すなどの活動を通して、色、形、数、大きさに注目し、楽しみながら数量や図形に関心をもつことが期待できる。</p>				
	指導の概略	<p>(1) 知っている形や色を発表する。</p> <p>(2) 本書を自由に見る。</p> <p>(3) 本書にある質問を聞き、本書を見たり触ったりしながら答える。</p> <p>(4) 色板を色ごとに分類する。</p> <p>(5) 同じ色の色板を形ごとに分類する。</p> <p>(6) 様々な色の色板を形ごとに分類する。</p> <p>(7) 本書の四角形や円にくり抜かれた部分を使って図形を描く。</p> <p>(8) 描いた図形に色を塗ったり、組み合わせたりする。</p> <p>(9) できたものを発表する。</p> <p>(10) 活動を通して、発見したことについて振り返る。</p>				

(記入上の注意)

- 1 対象学年の（ ）は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	12
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	わたしがかわる みらいもかわる SDGs はじめのいっぽ		発 行 者 名	汐文社	
図 書 の 内 容	<p>本書は、世界の現状やそれを踏まえて策定されたSDGsを理解し、「自分たちがどのような行動ができるか」を学ぶことができる図書である。</p> <p>「もったいないをしてみよう」「ありがとうのきもちでたいせつにしてみよう」「ゆうきをもってやってみよう」などの内容がイラストと短い文で表現されており、SDGsについて理解しやすい内容になっている。</p> <p>そして、自分たちの行動が、世界とつながり、これからの未来へとつながることを理解することができる図書である。</p>				
対 象 学 年	中学部2年(重複学級)	障がい種別	肢体不自由	該当教科	社会
選 定 の 理 由	児童生徒の実態	<p>本生徒は、肢体不自由と知的障がいを併せ有している。脳性まひによる両下肢機能障がいがあり、車椅子やクラッチで生活している。日常生活は、全般的に見守りが必要である。家庭では、家族と一緒にニュースを見ることが多く、様々な国の様子について、学校でも話すことがある。SDGsについても、その言葉だけは知っているようで、世界の出来事に注目している。</p> <p>本書を活用して、SDGsがテレビのニュースだけでなく、自分たちでもできることがあることを理解し、さらにやってみようとする大切さを実感することや、自分にできることを考え、実践への意欲を高めることも期待できる。</p>			
	指導の概略	<p>(1) SDGsについて知っていることを発表する。</p> <p>(2) 本書を読む。</p> <p>(3) 教師と一緒に、内容を確認しながら本書を読む。</p> <p>(4) SDGsとは何なのかを確認する。</p> <p>(5) SDGsについて、もっと詳しく知りたいことについて調べ、発表する。</p> <p>(6) SDGsの取り組みで、自分が実践していることを発表する。</p> <p>(7) SDGsの取り組みで、自分がこれからやってみようと思うことを発表する。</p> <p>(8) SDGsについて、調べたり実践したりしたことをまとめる。</p> <p>(9) まとめたものを交流し合い、学習を振り返る。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	13
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	へんてこたいそう		発 行 者 名	小峰書店	
図 書 の 内 容	<p>本書は、私たちの生活の中で目にするマークが動き出す図書である。また、反復が多く、リズムカルに読み進めることができる。</p> <p>トイレや非常口のマークが動き出し、思わず体を動かしたくなる。そのような活動を通して、マークに親しみをもつことができる。</p> <p>また、本書に描かれているマークだけでなく、身のまわりにあるマークにも目を向けるきっかけとなる図書である。</p>				
対 象 学 年	小学部5年(重複学級)	障がい種別	病弱	該当教科	生活
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、慢性疾患により、幼少期から入退院を繰り返している。また、知的障がいを併せ有している。病状から、屋外での活動等に制限があり、生活経験が少ない。身のまわりに様々なマークがあることも、分からない状況である。しかし、東京オリンピックの開会式を見て、ピクトグラムに興味をもち始めている。</p> <p>本書を活用して、私たち身のまわりにたくさんのマークがあることにも興味をもち、その働きについて理解したり、考えたりすることが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 本書を読む。</p> <p>(2) 面白かったところ、気に入ったマークを発表する。</p> <p>(3) 私たちの身のまわりには、たくさんのマークがあることを知る。</p> <p>(4) 本書に描かれているマーク以外のマークについて調べる。</p> <p>(5) 調べたことをまとめる。</p> <p>(6) 調べたことを発表し合う。</p> <p>(7) あったらいいなと思うマークを考える。</p> <p>(8) 考えたことを発表し合う。</p> <p>(9) 発表を聞いて、感想を伝え合う。</p> <p>(10) 調べたことや考えたことをもとに、そのものの役割や働きについて考え、学習を振り返る。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	14
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	えほんコグトレ1 スウちゃんとミイくんの しょうてんがいで おかいもの		発 行 者 名	東洋館出版社	
図 書 の 内 容	本書は、商店街に買い物にやってきた「スウちゃん」と「ミイくん」の前にコグトレマスターが現れ、次々に出される問題に答えていく展開である。ストーリーの中で登場人物と一体になって、「みつける」「そうぞうする」「かぞえる」「おぼえる」といった活動ができることから、高い意欲で数や形等に着目して学習に取り組むことができる図書である。				
対 象 学 年	小学部5年（重複学級）	障がい種別	病弱	該当教科	算数
選 定 の 理 由	児童生徒の実態	<p>本生徒は、慢性疾患のため、入退院を繰り返しており、知的発達が6歳程度の児童である。忍者ごっこや探検ごっこを好み、体調に応じながら、友達と一緒にその人物になりきって遊んでいる。算数については、10までの数字を数えること、5までの数字を使った加減法について学習をしているが、数の数え間違いがみられ、また、学習内容の定着に繰り返し学習することが必要である。</p> <p>本書を活用することで、「コグトレマスター」からの問題を解決することへの意欲付けを図りながら、学習に取り組むことが期待される。また、鮮やかに描かれた絵に着目しながら、数や形を集中して数えたり、形を比較したりする活動ができると考える。</p>			
	指導の概略	<p>(1) コグトレを体験し、どんな活動をするかを知る。</p> <p>(2) 本書のストーリーに沿って、コグトレ（1～3）を行う。 「おぼえる」・「みつける」・「みつける」</p> <p>(3) 本書のストーリーに沿って、コグトレ（4～7）を行う。 「おぼえる」・「かぞえる」・「みつける」・「そうぞうする」</p> <p>(4) 本書のストーリーに沿って、コグトレ（8～10）を行う。 「みつける」・「みつける」・「みつける」</p> <p>(5) 教師が「コグトレキング」となって出題する問題を解く。 「おぼえる」・「みつける」・「そうぞうする」・「かぞえる」</p> <p>(6) 学習の振り返りをする。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の（ ）は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	15
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	びたっとへんしん プレタングラム のりもの		発 行 者 名	岩崎書店	
図 書 の 内 容	本書は、三角や四角など5枚の色板で、ヨットやブルドーザーの形を作ることができる図書である。色板を溝にはめ込む仕組みなので、パズル感覚で興味をもって取り組むことができる。また、色板の種類や向きを変えることで、のりもの以外のかたちづくりにも発展させることができる図書である。				
対 象 学 年	小学部5年	障 が い 種 別	知的障がい	該 当 教 科	算 数
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、知的発達に5歳程度である。身の自立はほぼ確立している。普段から積み木やブロックで遊ぶことが好きである。また、積み木遊びをとおして、似たものどうしで仲間分けをしたり、丸、三角、四角の名称が分かるようになった。</p> <p>本書を活用して、平面の三角や四角の色板をはめていろいろな形を表現できることを知り、自分ではめてみることを期待できる。さらに、色板の種類や数を増やしたり向きを変えたりすることで、のりもの以外の形づくりへと発展させることが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 表紙から色板をはずし、形と名称を確認する。</p> <p>(2) ヨットのお話を教師と一緒に読み、のりものをイメージする。</p> <p>(3) 色板を教師と一緒にはめて、完成形を確認する。</p> <p>(4) ひとりではめる。</p> <p>(5) 完成したのりものを見せて、使った形や枚数を発表する。</p> <p>(6) 他ののりものについても(2)から(5)を行う。</p> <p>(7) 本書の裏表紙に描いてあるのりものを紹介し、教師と一緒に並べてみる。</p> <p>(8) 見本を見ながらひとりで並べる。</p> <p>(9) 丸い色板も加え、丸、三角、四角の色板を使って並べてみる。</p> <p>(10) それぞれが並べてつくった形を、発表し合う。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	16
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	めくっておぼえる にほん地図	発 行 者 名	コクヨ株式会社		
図 書 の 内 容	本書は、各都道府県のしかけ扉をめくると、県名とともに各地の名所・名物が現れる、しかけのある図書である。自分が住んでいる県や、行ってみたい都道府県がどこにあるかを探して見つける楽しさ、見つけた都道府県の扉をめくことで、そこにはどんな名所・名物があるのかを知ることができる図書である。				
対 象 学 年	中学部1年(重複学級)	障 が い 種 別	聴覚障がい	該 当 教 科	社 会
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本生徒は、聴覚障がいがあり、聴力は左右とも95dbである。軽度の知的障がいを併せ有している。小学部での修学旅行を経験後、自分が住んでいる県以外にも興味をもつようになった。また、テレビなどで見聞きした都道府県や地名を教師に訪ねる場面もみられるようになった。</p> <p>本書を活用して、自分でそれぞれの都道府県の形の扉をパズル感覚でめくることにより、興味・関心をもって県庁所在地や、名所・名物を文字とイラストで学習することが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 自分が住んでいる県を発表し、どの地方にあり、日本地図ではどの場所にあるか確認する。</p> <p>(2) 扉をめくり、県庁所在地を確認する。</p> <p>(3) (2)で確認した県庁所在地の他に、イラスト等でかかれてある名所・名物を知り、発表する。</p> <p>(4) 隣県の扉もめくり、県庁所在地や名物等を発表する。</p> <p>(5) 行ったことがある県についても、県庁所在地等を調べる。</p> <p>(6) 地方ごとに、各都道府県の県庁所在地や名所・名物を調べてまとめる。</p> <p>(7) 興味をもった場所や、行ってみたい場所を発表し、さらに関心のあることを調べる。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	17
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	きみのげんきをマモルンジャー！		発 行 者 名	教育画劇	
図 書 の 内 容	<p>本書は、免疫抗体をイメージした免疫ヒーローの「マモルンジャー」の活躍の紹介を通して、体の中の免疫機能やその機能を高める方法について理解を深められる内容である。また、読み手自身が手洗い上手な「テアライダー」になるという設定になっており、細菌やウイルスを体に入れないための方法として、手洗いの大切さや上手な手の洗い方について、分かりやすく紹介されていることから、生活での実践につなげることができる図書である。</p>				
対 象 学 年	中学部1年	障がい種別	知的障がい	該当教科	保健体育
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本生徒は、知的発達に6歳程度である。友達とかかわりながら、体を動かして活動することを好み、身の自立が図られてきているが、手洗いなどを忘れることも少なくない。休み時間には、お気に入りのテレビアニメのキャラクターの真似をして遊んだり、学習プリントにそのキャラクターの挿絵があることで意欲を高めて学習したりすることができる。</p> <p>免疫の機能について、「マモルンジャー」と細菌やウイルスとの戦いの様子を通して、免疫の働きやその機能を高めるための生活の仕方について、理解を深めることが期待できる。また、「マモルンジャー」を守るための方法として、正しい手洗いが大切であることやその具体的な手順を知ることで、日常の手洗いに生かしていくことも期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 本書を読み、「マモルンジャー」はどんな働きをしているか確認する。 (2) 「マモルンジャー」のピンチには、どうすればよいか確認する。 (3) 細菌やウイルスから体を守るにはどうすればよいか確認する。 (4) 「テアライダー」のワザを確認する。 (5) 「テアライダー」のワザを実際にやってみる。 (6) 「テアライダー」のワザをどんな時に使うとよいか確認する。 (7) 学習の振り返りをする。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	18
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	いるいる！みずべのいきもの		発 行 者 名	教育画劇	
図 書 の 内 容	<p>本書は、淡水、海水に生息している生き物を観察する視点で写実的に描いており、生き物の姿や生態を理解することができる図書である。</p> <p>また、擬人化により、人間の言葉で生き物の気持ちが表現されており、生き物を愛護する心情や態度を養うことができる図書である。</p>				
対 象 学 年	中学部1年	障がい種別	知的障がい	該当教科	理科
選 定 の 理 由	児童生徒の実態	<p>本生徒は、知的発達が5歳程度である。昆虫や恐竜などの生き物を好み、図書室ではこれらの図鑑を夢中になって見ている。保護者とハイキングや釣りなどに出かける機会があり、その機会に昆虫などを採集し、飼育することを楽しんでいく。</p> <p>本書を活用して、水辺の生き物の生態を知ることを通して、水辺には様々な生物がいて、その種類ごとに異なる生態があることを理解することが期待できる。また、生き物の言葉に着目しながら、その行動を追うことで生き物を慈しみ、大切にすることを学べる。</p>			
	指導の概略	<p>(1) 水辺にはどんな生き物がいるかについて発表する。</p> <p>(2) みんなで協力して、「みずべのいきものずかん」を作ることを決める。</p> <p>(3) 本書を読み、好きな生き物を発表する。</p> <p>(4) オタマジャクシ、カメ、メダカについて確かめる。</p> <p>(5) タイコウチ、ザリガニ、トノサマガエルについて確かめる。</p> <p>(6) 川と海の生き物や様子の違いを比べ、ヤドカリについて確かめる。</p> <p>(7) 自分が調べる生き物を決める。</p> <p>(8) 自分が決めた生き物を探しに行く。</p> <p>(9) 自分が決めた生き物を観察したり、インターネットや図鑑で調べたりする。</p> <p>(10) 図鑑のページを完成させる。</p> <p>(11) みんなのページを集めて、「みずべのいきものずかん」を完成させる。</p> <p>(時間外) 担任外の先生に読んでもらい、感想をもらう。</p> <p>(12) 担任外の先生の感想を聞き、学習を振り返る。</p>			

(記入上の注意)

- 1 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 2 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - (1) 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - (2) 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 3 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	19
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	おとがあふれて オムライス		発 行 者 名	福音館書店	
図 書 の 内 容	<p>本書は、オムライス作りを題材に、料理の工程での色々な音がイラストともに表現されている。にんじんの皮むきの場面では「しゃっしゅっ」、卵を混ぜる場面は「しゃら しゃら しゃら」など、切ったり、混ぜたり、炒めたりと、オムライスが完成するまでの料理工程で聞こえてくる色々な音を、イラストを見ながら声に出して楽しむことが期待できる。それぞれの場面に音がともなうことを知ることで、他の生活の場面での音への興味・関心を広げることができる図書である。</p>				
対 象 学 年	小学部6年(重複学級)	障 が い 種 別	聴 覚 障 が い	該 当 教 科	国 語
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本児童は、聴覚障がいがあり、聴力が左右とも90dbで、知的発達が7歳程度の児童である。補聴器をつけた状態で、大人がゆっくり大きな声で話す言葉が聞き取ることができ、ひらがなを読んだり書いたりすることができる。また、調理活動に興味があり、家庭でも手伝いをしている。</p> <p>本書のオムライス作りの工程は、一つ一つの工程が分かりやすく描かれているので、初めは「オムライス作り」に興味を示すと思われるが、作り方を確認しながら読み進め、動作を模倣しながら声に出すことで、色々な音の違いや、音の楽しさに気づくことが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 本書を自由に読み、オムライス作りの工程で音が表現されていることに気づく。</p> <p>(2) 教師と一緒に動作を模倣しながら、声を出してみる。</p> <p>(3) 実際に調理活動を行い、聞こえた音を自分なりに言葉で表現してみる。</p> <p>(4) 他の生活の場面で、どのような音がするか想像してみる。</p> <p>(5) 想像した音を、自分なりに話したり書いたりし、発表する。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

一般図書選定の理由書

番 号	20
--------	----

学校名 _____

担当者名 _____

図 書 名	かんじのえほん	発 行 者 名	玉川大学出版部		
図 書 の 内 容	<p>本書は、田、目、口、毛、山、川など小学校1年生で学習する身近な漢字の成り立ちや意味が、イラストと説明で分かりやすく書いてあり、漢字について理解を深められる内容である。また、漢字の書き順が絵文字で書かれてあり、楽しみながら漢字の学習に取り組むことができる図書である。</p>				
対 象 学 年	中学部2年(重複学級)	障 が い 種 別	聴 覚 障 が い	該 当 教 科	国 語
選 定 の 理 由	児 童 生 徒 の 実 態	<p>本生徒は、聴覚障がいがあり、聴力は左右とも90dbである。軽度の知的障がいを併せ有している。平仮名、片仮名の読み書きができる。最近では漢字にも興味をもち、自分の名前を書く際に、漢字で書かれた名札を見ながら簡単な漢字を視写したり、校内の掲示物に書かれてある漢字の読み方について教師に聞いたりする場面がみられる。</p> <p>漢字に興味・関心があることから、本書を活用して、「山」や「川」などの漢字の成り立ちや意味をイラストをとおして学ぶことで、他の漢字についても成り立ちや読み方について学びたいという意欲をもつことが期待される。また、漢字にも筆順があることを知り、筆順に従って書くことで形の整った感じを書くことが期待できる。</p>			
	指 導 の 概 略	<p>(1) 本書を教師と一緒に読み、自分や身近な人の名前の漢字が本書にあるか探す。</p> <p>(2) 見つけた漢字の成り立ちや意味について、イラストと説明から確認する。</p> <p>(3) 名前に含まれたもの以外の漢字の成り立ちについても、イラストと説明から確認する。</p> <p>(4) 教室や校内などの掲示物から、興味にある漢字を探す。</p> <p>(5) (4) で探した漢字の成り立ちや意味について、教師と一緒に考えたり調べたりし、発表する。</p>			

(記入上の注意)

- 対象学年の()は、訪問教育及び重複学級の場合に記入すること。
- 「児童生徒の実態」は、下記の観点で記入すること。
 - 該当教科との関連で実態を具体的に記入すること。
 - 選定した図書の有効性・必要性について記入すること。
- 「指導の概略」は、教科書の利用による指導内容・方法の概略を記入すること。

